

## 日本赤十字社は、新型コロナウイルス感染症から皆様の大切な命を守るために全力を尽くして活動しています。

日本赤十字社千葉県支部・成田赤十字病院・千葉県赤十字血液センターは、新型コロナウイルスによる感染症が終息するまでの間、継続的な医療支援やこころのケアなどの活動を通じて、県民の皆様の命と健康、日常生活を守るための活動を続けています。

### ～必要とされる現場に救護班等を派遣しています～



先の横浜クルーズ船内の新型コロナウイルス感染拡大では、乗船していた方々の経過観察を行うため成田赤十字病院から医師、看護師、事務3名を（2月22日～2月24日）滞在施設に派遣し、経過観察を含め感染拡大防止のための医療活動を実施してきました。

また、千葉県内の施設で起きた集団感染（クラスター）では、施設内で感染された方が確認された初段階から、いち早く感染症専門医師を派遣、命を守る医療活動にあたり、感染拡大を避けるための対応策を他の医療機関と連携し最善の対応を図ってまいりました。

4月19日、千葉県では、感染者の急激な増加に対応するため、成田市内のホテルを借り上げ軽症の患者さんを集中的に受け入れることとなりました。それを受け、成田赤十字病院では4月20日～24日まで救護班（医師・看護師・事務）を延べ21名派遣し医療対応にあたってきました。

### ～命を守る最前線で安心・安全な医療を提供しています～

成田赤十字病院は、全国に4病院しかない特定感染症指定医療機関として、その役割を果たすべく、行政等からの依頼により、新型コロナウイルス感染症の患者さんを受け入れ対応しています。

現場スタッフは万全の感染防止対策、充実した医療体制の下で、患者さんのため日々懸命に治療にあたっています。そのような中ではありますが、本来の役割である地域に根ざした医療、そして高度医療の提供は、今までと変わらない体制で診療を行っています。

この医療提供体制を維持し、患者さんの健康と命を守るため、職員一同、最善の努力を尽くしております。皆様方におかれましては、引き続きお一人お一人が感染防止対策に高い意識を持っていただき、感染への抑制にお力添えください。



## ～緊急事態宣言下における輸血用血液の安定供給～



現在、新型コロナウイルスの影響により献血バスのキャンセルが相次ぎ、また外出自粛の影響で関東甲信越地域では献血者数が大幅に減少しています。

「緊急事態宣言」という非常事態においても、他に代わるものがない輸血医療に使用される輸血用血液を日々安定的に患者さんに届ける必要があります。献血へのご協力は不要不急の外出にはあたりません。新型コロナウイルス感染防止のため、献血される方が一時期に集中しないように、また有効期間のある輸血用血液を必要量に応じて確保していくために、血液センターでは「献血のご予約」と「継続的な献血」をお願いしています。

## ～企業や団体、個人の皆さまから活動資金やマスク等のご支援をいただいています～

社会・経済活動への影響も懸念されるなか、企業や団体・個人の皆さまから活動資金やマスク・防護用ガウンなどのご寄付をいただいております。

現在、成田赤十字病院において、衛生材料の不足が懸念されており、ご寄付いただいた物品につきましては、大切に使用させていただいております。また、その他にも医療従事者に向けての温かい応援メッセージも多数いただいております、心より御礼申し上げます。



## 『親子のサポート・メンタルケア』

成田赤十字病院 臨床心理係長・公認心理師 橘 稚佳子

長引く学校の休校・外出自粛が与える親子への精神的な影響とケアについてお伝えします。

夏休みのように予定された楽しみにしていた「休み」とは違い、今回のように前触れもなく期限も見えない、お友達とも会えない「休み」が長期化してくると、子ども達も親御さんも少しずつ精神的な負担が増えてくると思います。そのような状況で、お子さんのストレスをケアする大切な 5つのポイントをお伝えします。

1. いつもと同じリズムを守るためにも、規則正しい生活を送ること
2. 感染予防についての正しい知識を得ること(正しい知識を子どもにわかりやすく伝えること)
3. 新型コロナ感染症に関連したテレビのニュースや映像に接する機会を減らすこと
4. 家族や親せき、友人などの親しい人と話す時間をもち、孤立しないようにすること
5. 子どもが自分から話をしてきた時には、ゆっくり聴いてあげる

また、お子さんのケアのためにも、親御さん自身のこころと身体のケアは大切です。親御さんやお子さんの周囲にいる大人が落ち着いて関われることが、子どもの安心につながるからです。親御さんのケアとしては、お子さんへのケアを自分自身にも行ってください。正しい知識を持つことで、過度な不安を防げます。感染症に関するメディアに接する時間を減らしましょう。必要な情報を得たらテレビを消して家族の団らんや休憩・趣味の時間にしてみてください。家族で一緒に過ごす時間、何気ないいつもの世間話が気分転換になります。

いつもと違う自分やいつもより心に余裕がないと感じることに對して、心配し過ぎないで大丈夫です。ただ、こういった状況が長く続いて辛いと感じる時には頑張りすぎずに県が行っている「心の相談窓口」に連絡してみてください。1人で抱え込まないことが大切です。

